

コンフィギュレータソフトウェア
(形式:R2CON)
取扱説明書

MSYSTEM
株式会社 エム・システム技研

目次

1. はじめに	3
1.1. R2CON とは	3
1.2. 動作環境	3
2. R2CON を使うための準備	4
2.1. R2CON のインストール	4
2.2. R2CON のアンインストール	5
2.3. パーソナルコンピュータと R2M シリーズの接続	6
2.4. R2CON の起動と終了	6
2.4.1.R2CON の起動	6
2.4.2.R2CON の終了	6
3. R2CON の使い方	7
3.1. オンラインでの操作	7
3.1.1. R2CON の起動	7
3.1.2. 通信ライン接続	7
3.1.3. 接続機種バージョン情報と設定内容の確認	8
3.1.4. 各チャンネルの設定パラメータの変更	9
3.1.5. ダウンロード	11
3.1.6. コンフィギュレーションの確認	11
3.1.7. モニタリング	11
3.1.8. 通信ラインクローズ	12
3.2. オフラインでの操作	12
3.2.1. 機種を選択	12
3.2.2. 各チャンネルのパラメータの設定	13
3.2.3. ファイルへの保存	14
4. R2CON 画面詳細	15
4.1. メニューバーの機能と構成	15
4.2. ツールボタンの機能と構成	15
4.3. 機種名&バージョン情報ウィンドウの機能と構成	16
4.4. 各チャンネルの設定情報ウィンドウの機能と構成	17
4.4.1. 2H3 設定情報画面の機能と構成	17
4.4.2. 2G3 設定情報画面の機能と構成	18
4.5. 設定用ポップアップウィンドウの機能と構成	19
4.5.1. 入力タイプ設定画面の機能と構成	19
4.5.2. Modbus 通信設定画面の機能と構成	20
4.5.3. Burnout Type の設定画面の機能と構成	20
4.5.4. Filter Time Const.の設定画面の機能と構成	21
4.5.5. CJC Sensor(CJM)の設定画面の機能と構成	21
4.5.6. ゼロ・スパン調整の設定画面の機能と構成	22
4.5.7. 警報出力の設定画面の機能と構成	23
付録	24
付録 1 通信ポートの変更方法	24

1. はじめに

本書は、「PCレコーダR2Mシリーズ コンフィギュレータソフトウェア」の取り扱い方法、操作手順、注意事項などを説明したものです。Windows の操作や用語を理解している方を前提としています。Windows の操作や用語については、それぞれのマニュアルを参照してください。本書は、コンフィギュレータソフトウェアのバージョン Ver 1.0 に対応しています。

1.1. R2CON とは

PCレコーダR2Mシリーズは、チャンネルごとにセンサ、入力レンジが設定できるため、熱電対をはじめとする各種センサの直接入力が可能です。しかも、付属の非絶縁ケーブルで、Windows 対応パソコンにダイレクトに接続することができます。

R2Mシリーズは、以下の2つのタイプがあります。

R2M-2H3 <熱電対8点入力タイプ>

R2M-2G3 <DC8点入力タイプ>

R2CONは、このPCレコーダR2Mシリーズのシステムの入力タイプ、冷接点温度補償のON/OFF、バーンアウト、フィルタリング時定数を設定し、ユーザの要求に合致したシステムを構築するためのツールです。

R2CONには以下のような機能があります。

- ① 上位通信パラメータ設定機能
 - ・ PCレコーダR2Mシリーズのコンフィギュレーションは、「config」ポートを用いて行いますが、各種ネットワークで上位コンピュータと接続する際のModbus通信に関わるパラメータ（ノードアドレス、通信速度など）の設定を行います。PCレコーダR2Mシリーズでは、ユーザの取り扱いや保守を容易にするため、多くのケースはハードウェア設定になっていますので、特殊なケース以外の通常のケースでは、使用しなくても良いようになっています。
- ② チャンネルごとのパラメータ設定機能
 - ・ R2M-2H3では、熱電対の種類の設定が、チャンネルごとにできます。
- ③ ファイル管理機能
 - ・ チャンネル毎のパラメータ設定は、コンピュータ上のファイルにセーブすることができます。従って、コンフィギュレーション作業は、R2MリモートI/Oシステムと接続しないオフライン状態で編集できます。セーブしたファイルを読み出し、制御モジュールに設定することにより、効率良くかつ誤りなくコンフィギュレーションが可能になります。
- ④ モニタリング機能
 - ・ コンフィギュレーションしたデータを用いて、アナログ入力データのチェックが行えます。
- ⑤ 設定値補正/調整機能
 - ・ R2M-2H3、R2M-2G3では、ゼロ・スパン調整が行えます。
 - ・ R2M-2H3では、冷接点温度補償（CJM）素子交換が行えます。

1.2. 動作環境

R2CONをお使いいただくためには、以下のハードウェアが必要です。

- ・ Windows7 (32bit/64bit)、Windows10 (32bit/64bit) が正しくインストールされたDOS/V互換パーソナルコンピュータ。
- ・ 付属ケーブル。

2. R2CON を使うための準備

コンフィギュレーションソフトウェアを使うためには、ソフトウェアをインストールする必要があります。コンフィギュレーションしたデータを制御モジュールに書きこむためには、正しく接続されていないとなりません。ソフトウェアのインストール方法と接続について説明します。

2.1. R2CON のインストール

- ① Windows を起動します。
- ② R2CON のセットアップ CD-ROM を CD-ROM ドライブに挿入します。
自動的にインストールが始まります。画面に表示されるメッセージにしたがって操作してください。

注 自動的にインストールが始まらない時は、③以降の操作を行って下さい。

- ③ Windows の **スタート** ボタンをクリックして、[設定] のサブメニューから [コントロールパネル] を実行します。
→コントロールパネルが表示されます。
- ④ [アプリケーションの追加と削除] をダブルクリックします。
→ [アプリケーションの追加と削除のプロパティ] ダイアログが表示されます。
- ⑤ [セットアップ] ボタン (または [インストール] ボタン) をクリックします。
→ [フロッピーディスクまたは CD-ROM からのセットアップ] ダイアログ (または [フロッピーディスクまたは CD-ROM からのインストール] ダイアログ) が表示されます。
- ⑥ [次へ] ボタンをクリックします。
→ [セットアッププログラムの実行] ダイアログ (または [インストールプログラムの実行] ダイアログ) が表示されます。
- ⑦ [参照] ボタンをクリックし、CD-ROM ドライブの R2CON ディレクトリの中から Setup を選択し、[開く] ボタンをクリックします。
→下のような画面が表示されます。



[セットアッププログラムのコマンドライン] に CD-ROM をセットしたドライブ名と” R2CON¥SETUP.EXE”が表示されていることを確認してください。(例 E:¥R2CON¥SETUP.EXE)

- ⑧ [完了] ボタンをクリックします。
→インストールプログラム (SETUP. EXE) が起動し、インストールが始まります。
以降は、画面に表示されるメッセージにしたがって操作してください。

これでインストールは終了です。

注 プログラムを再インストールする場合には、2.2.で説明する R2CON のアンインストールを行ってからインストールしてください。

2.2. R2CON のアンインストール

- ① Windows の **スタート** ボタンをクリックして、[設定] のサブメニューから [コントロールパネル] を実行します。
→コントロールパネルが表示されます。
- ② [アプリケーションの追加と削除] をダブルクリックします。
→ [アプリケーションの追加と削除のプロパティ] ダイアログが表示されます。
- ③ 表示されているアプリケーションの一覧から [R2CON] を選択します。
- ④ **追加と削除** ボタンをクリックします。
- ⑤ [ファイル削除の確認] ダイアログが表示されるので、**はい** ボタンをクリックします。
→R2CON を関連するファイルが削除されます。

2.3. パーソナルコンピュータと R2M シリーズの接続

付属のケーブルを、パーソナルコンピュータの COM ポートと R2M シリーズの Config ポートとを接続します。

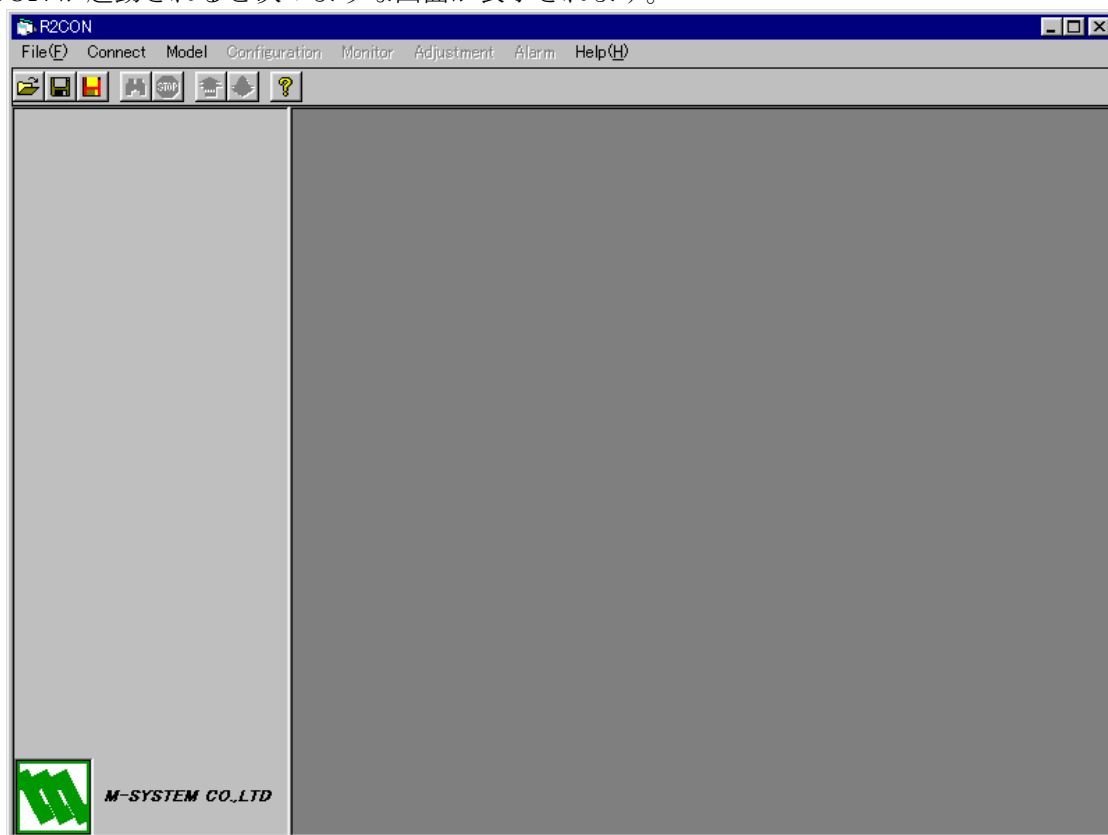
2.4. R2CON の起動と終了

(本章で示す画面／ウィンドウはイメージを示すものです。バージョンアップにより細部が変更されることがあります)

2.4.1.R2CON の起動

〈スタートメニュー〉－〈プログラム〉－〈R2CON〉を選択します。

R2CON が起動されると次のような画面が表示されます。



2.4.2.R2CON の終了

R2CON ウィンドウのツールバーの左にある〈Files〉－〈End〉ボタンをクリックすると終了します。

注 R2CON ウィンドウの右上にある閉じるボタン をクリックしても終了しませんのでご注意ください。

3. R2CON の使い方

R2CON の操作方法を説明します。R2CON の操作は、大きく以下のように分類することができます。ここでは、各操作ごとに例題を設定し、実際の R2CON のコンフィギュレーション操作を行ってみます。

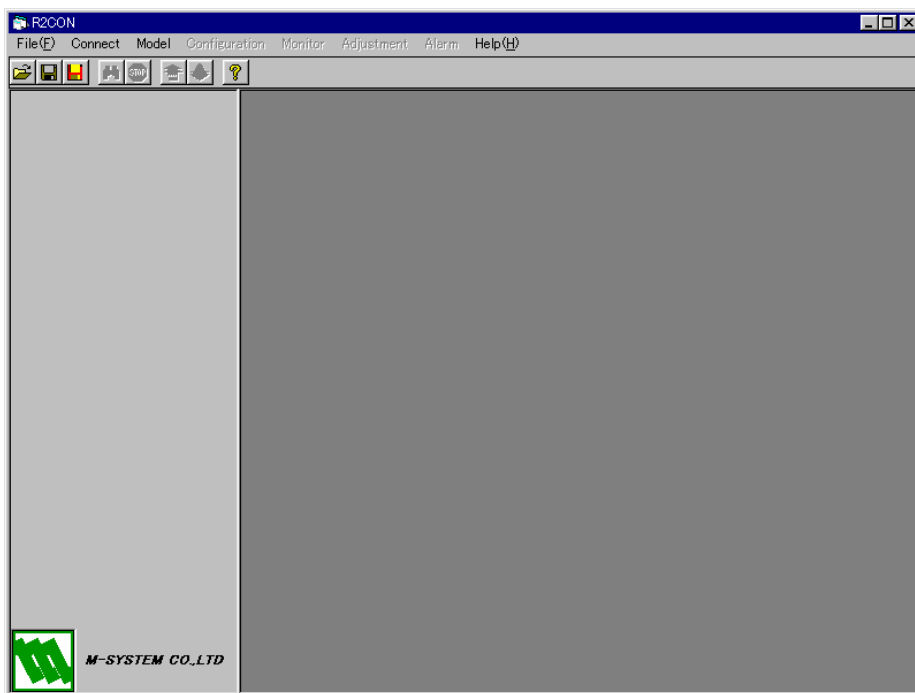
- i) オンラインでの操作
オンラインとは、R 2 Mシリーズのシステムと通信ラインを接続している状態のことです。
- ii) オフラインでの操作
オフラインとは、R 2 Mシリーズのシステムと通信ラインを接続していない状態のことです。

3.1. オンラインでの操作

- 1) R 2 CON の起動
- 2) 通信ライン接続
- 3) 接続機種バージョン情報と設定内容の確認
- 4) 各チャンネルの設定パラメータの変更
- 5) ダウンロード
- 6) コンフィギュレーションの確認
- 7) モニタリング
- 8) 通信ラインクローズ

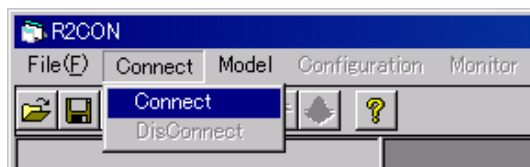
3.1.1. R2CON の起動

スタート—<プログラム>—<R2CON>を選択します。
R2CON が起動されると次のような画面が表示されます。



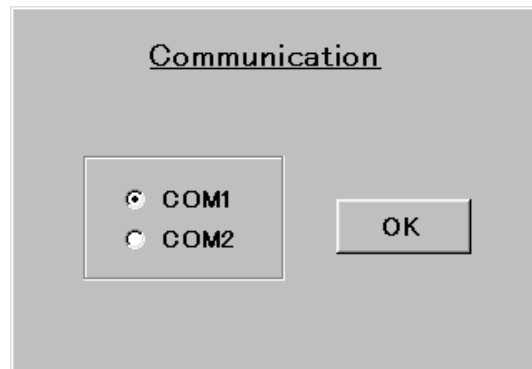
3.1.2. 通信ライン接続

R 2 Mシリーズと接続します。図のようにメニューバーから[Connect]-[Connect]を選択します。



次のような「Communication」に関するポップアップウィンドウが表示されます。今、R 2Mシリーズの電源が投入されておりかつPCのCOMライン1とR 2Mシリーズのコンフィギュレータジャックとがケーブルで正しく接続されていることを確認します。そして、図のようにして<COM1>を選択し、[OK]ボタンをクリックします。

COMポートはCOM1とCOM2のみサポートしています。COM3以降はCOMポートを変更してご使用ください。変更方法については付録1をご参照ください。

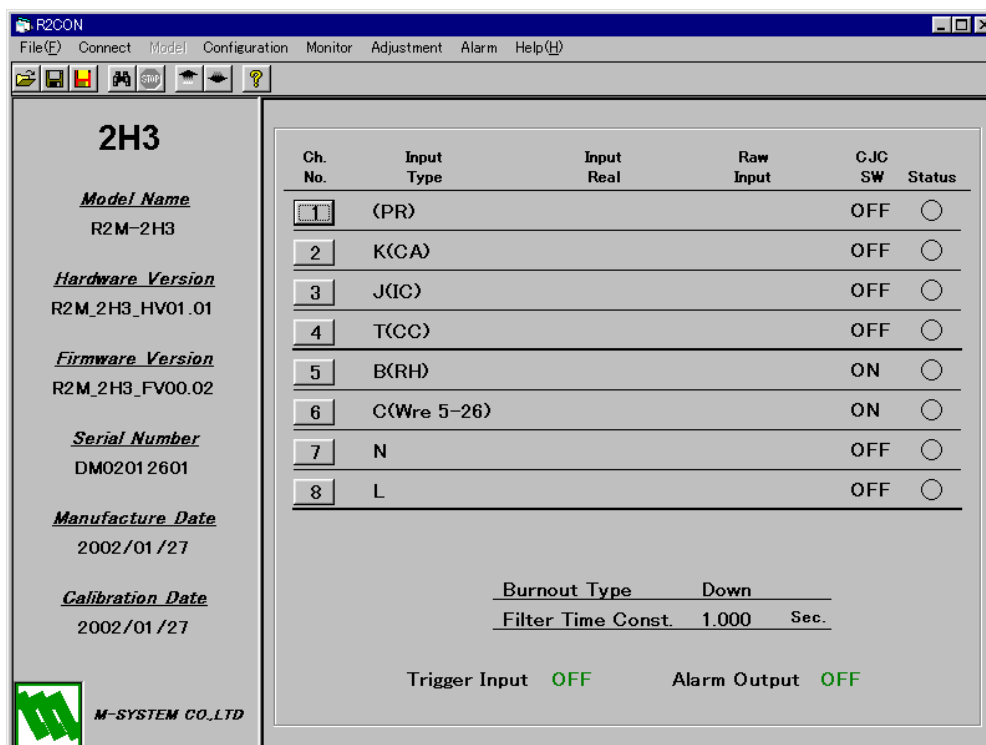


R 2Mシステムとの接続が行われ、通信ラインが確立すると接続している機種バージョン情報と設定内容が表示されます。

注 接続が成功しないとメッセージが表示され、接続している機種バージョンの情報が表示されません。この場合には、PCとR2Mシリーズシステムの接続ラインおよびPC側の通信ラインのドライバの状態を再確認ください。

3.1.3. 接続機種バージョン情報と設定内容の確認

PCとR 2Mシリーズの接続が成功すると、以下のように、左側に機種名&バージョン情報、右側に設定内容が表示されます。内容をご確認下さい。また、画面と詳細な機能は4章 R2CON 画面詳細 に記述されています。今、機種 R2M-2H3 が接続しているとします。

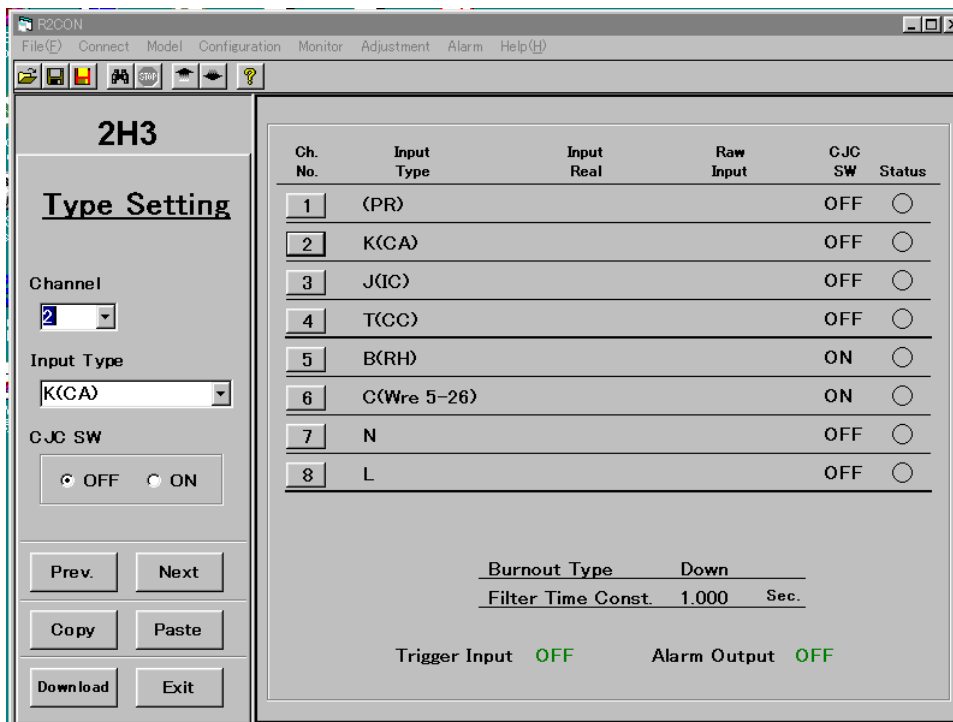


3.1.4. 各チャンネルの設定パラメータの変更

右側のウィンドウの変更するチャンネル番号のボタンをクリックすると、図のような「Type Setting」ウィンドウがポップアップするので、パラメータの変更を行います。

今、以下の二つの変更を行うとします。

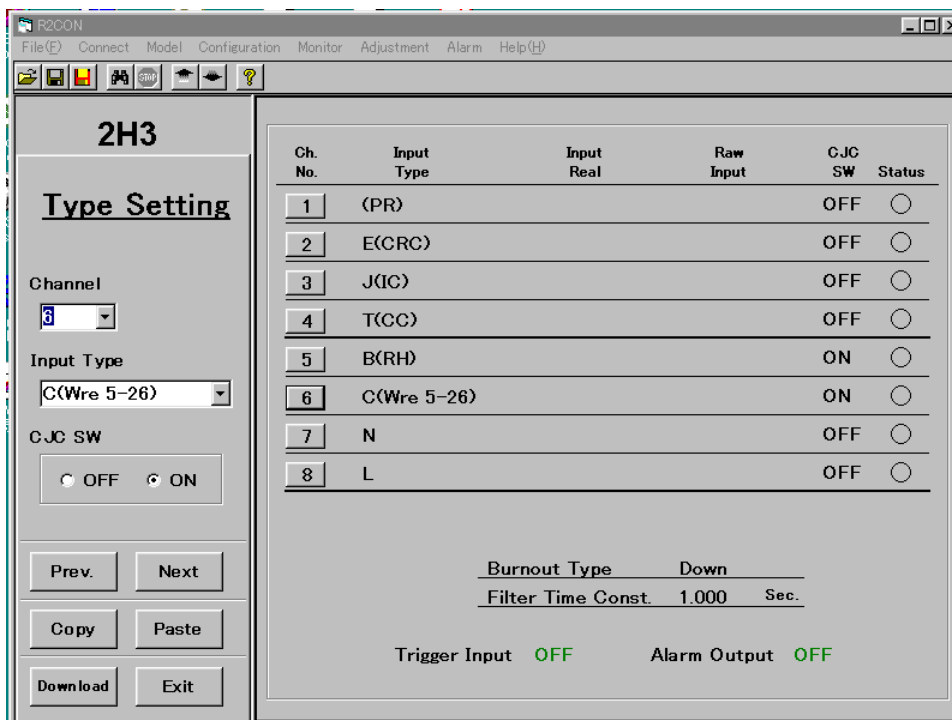
- i) チャンネル番号2の Input Type を K(CA) → E(CRC) にする。
[2]ボタンをクリックすると、画面左端に「Type Setting」ウィンドウが表れます。



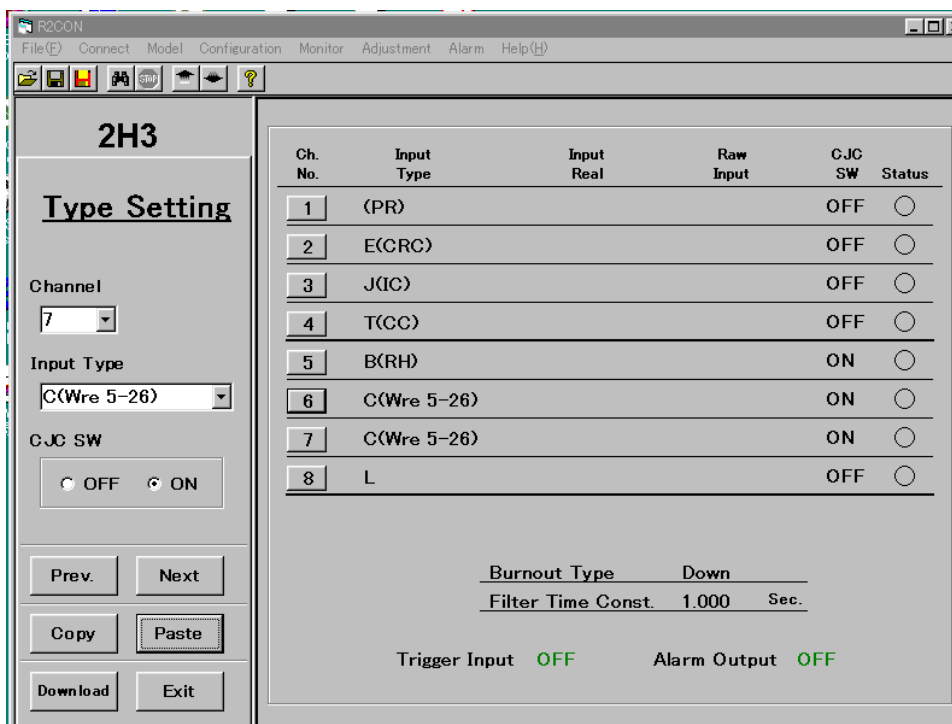
Input Type のコンボボックスで、<E(CRC)> を選択します。

右側のウィンドウのチャンネル番号2の Input Type が、E(CRC)に変更されたことを確認して下さい。

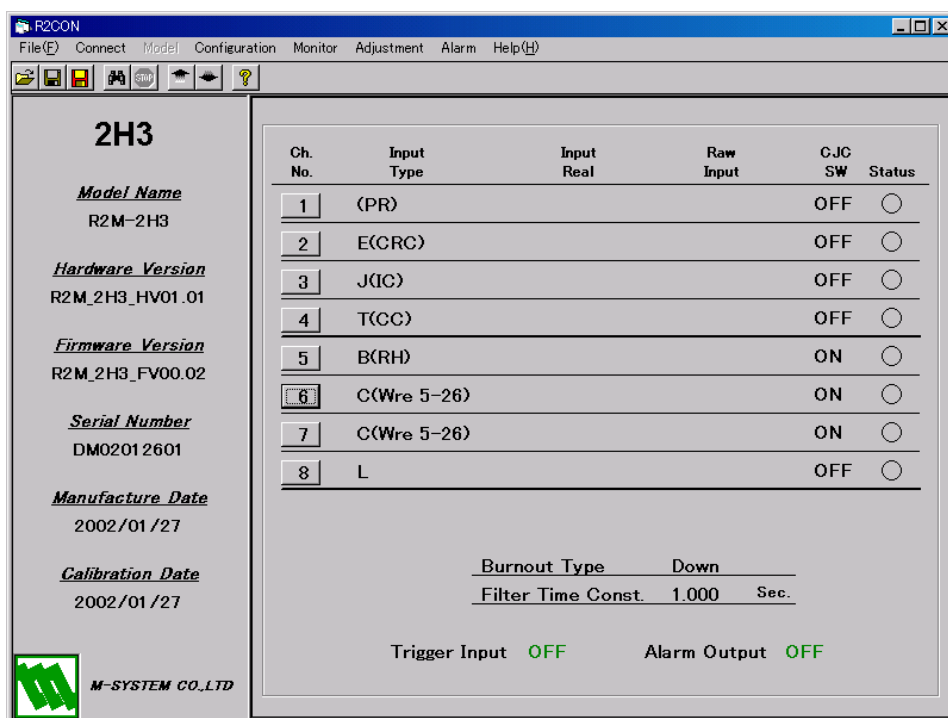
- ii) チャンネル番号7の設定内容をチャンネル番号6の設定内容と同じにします。
Channel のコンボボックスで、<6>を選択すると、以下のようにチャンネル番号6のパラメータ設定画面になります。




設定内容をコピーするために、[Copy]ボタンをクリックします。次に [Next]ボタンをクリックし、チャンネル番号7 のパラメータ設定画面になったことを確認し、[Paste]ボタンをクリックします。以下のような画面になります。



右側のウィンドウのチャンネル番号7の設定内容にチャンネル番号6の設定内容がコピーされたことを確認して下さい。[Exit]ボタンをクリックすると、「Type Setting」画面が閉じます。設定画面は以下ようになります。



3.1.5. ダウンロード

チャンネル番号2とチャンネル番号7のパラメータ変更内容をまとめてコンフィギュレーションするために、メニューバーの[Configuration]-[Download]、もしくは、ツールボタンのをクリックします。


3.1.4 各チャンネルの設定パラメータの変更で変更した情報と他のすべてのチャンネルの設定情報をR2Mシリーズにダウンロードします。

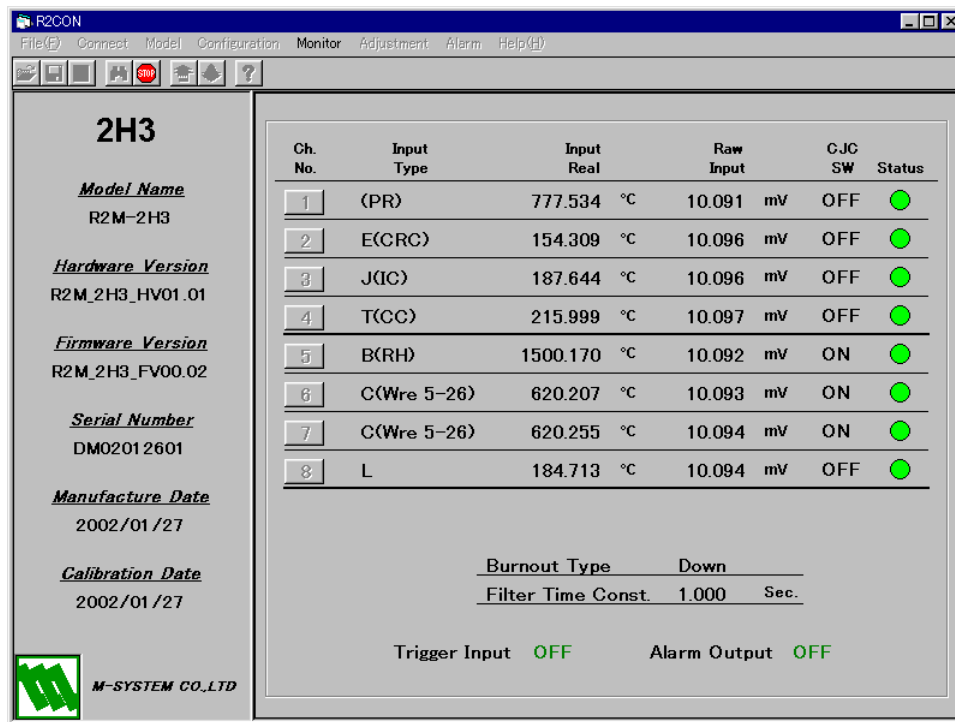
1つのチャンネルの設定内容だけをダウンロードするには、「Type Setting」ウィンドウの[Download]ボタンをクリックします。この場合、表示しているチャンネルの情報のみコンフィギュレーションします。

3.1.6. コンフィギュレーションの確認


R2CONは、ダウンロードした後自動的にアップロードを行います。従って、現在表示されている内容が設定した内容と同じであれば、コンフィギュレーションが正しく行われたことが確認できます。現在表示されている各パラメータのデータと、設定したデータとに違いがないことを確認して下さい。データの量が多い場合は、ファイル管理機能をご利用下さい。

3.1.7. モニタリング

モニタリング機能を使って、アナログ入力値を確認します。メニューバーの[Monitor]-[Start]もしくは、ツールボタンのをクリックします。以下のようにモニタリングが行われます。



アナログ入力値のチェックを行い、正しく動作することを確認下さい。

メニューバーの[Monitor]-[Stop]もしくは、ツールボタンのをクリックし、モニタリングを停止します。

3.1.8. 通信ラインクローズ

R 2 Mシリーズとの接続を切ります。

メニューバーから[Connect]-[Disconnect]を選択します。

3.2. オフラインでの操作

R2CON では、通信ラインが接続していない状態でも、以下のような操作を行うことができます。

- 1) 機種を選択
- 2) 各チャンネルのパラメータの設定
- 3) ファイルへの保存

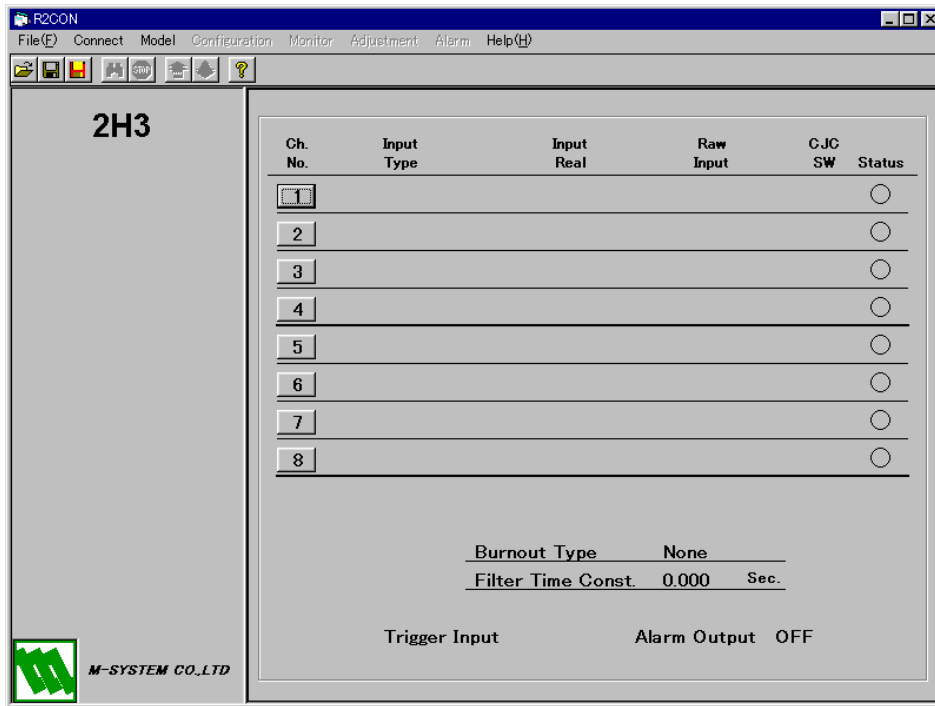
Modbus 通信の設定、CJM の設定、各チャンネルのパラメータの設定内容をファイルに保存することができるため、効率良い正確な作業を行なうことができます。

3.2.1. 機種を選択

作業する機種を選択します。

新規に設定していく場合、メニューバーの[Model]-[2H3]または[Model]-[2G3]を選択します。

既存のファイルから情報を読んてくる場合、メニューバーの[File]-[Open]でファイル名を選択します。ここでは、新規に 2H3 を選択した例を示します。

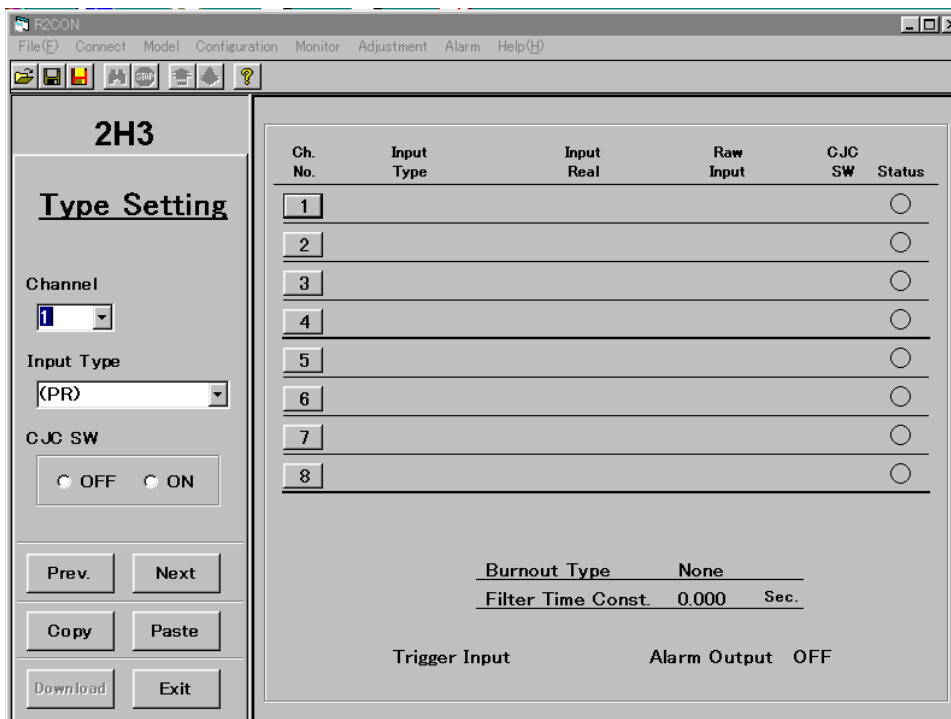


3.2.2. 各チャンネルのパラメータの設定

右側のウィンドウの設定するチャンネル番号のボタンをクリックすると、図のような「Type Setting」ウィンドウがポップアップするので、パラメータの設定を行います。

今、以下の二つの設定を行うとします。

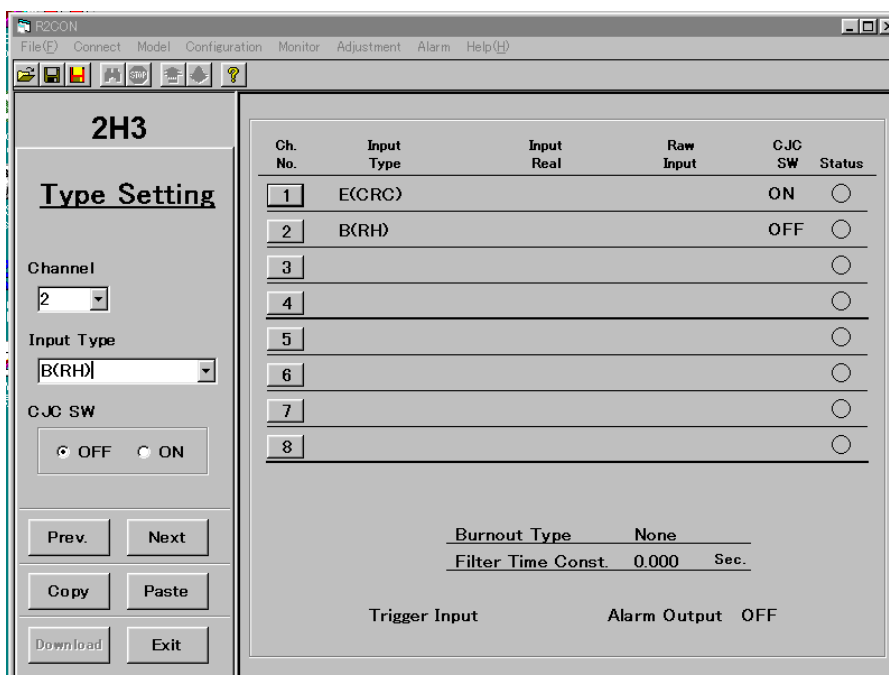
- i) チャンネル番号1の Input Type を E(CRC)にし、CJC SW を ON にする。
[1]ボタンをクリックすると、画面左端に「Type Setting」ウィンドウが表れます。



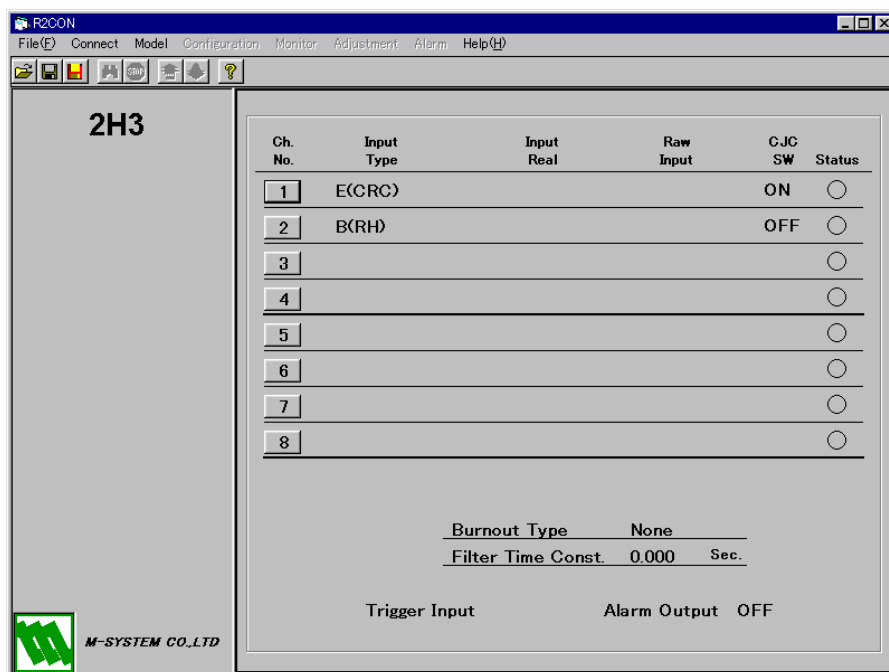
Input Type のコンボボックスで、E(CRC)を選択し、CJC SW のオプションボタンを ON にします。

右側のウィンドウのチャンネル番号1の Input Type が E(CRC)、CJC SW が ON に設定されたことを確認して下さい。


- ii) チャンネル番号2の Input Type を B(RH)にし、CJC SW を OFF にする。
 [Next]ボタンで、チャンネル番号2の設定画面にします。各コンボボックスで、上記内容を設定します。以下のような設定画面になります。



右側のウィンドウのチャンネル番号2の Input Type が B(RH)、CJC SW が OFF に設定されたことを確認して下さい。
 [Exit]ボタンをクリックすると、「Type Setting」画面が閉じます。設定画面は以下のようになります。



3.2.3. ファイルへの保存

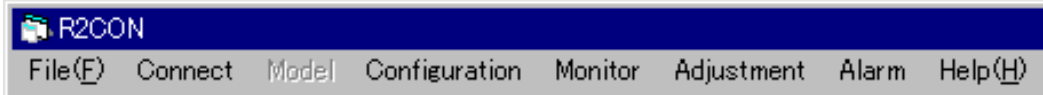
設定内容をファイルに保存します。メニューバーの[File]-[Save As]もしくは、ツールボタンのをクリックし、ファイル名を指定して、保存します。

4. R2CON 画面詳細

R2CON の画面構成と詳細機能について説明します。

R2CON は、画面上部のメニューバー、ツールボタン、画面左サイドの機種名&バージョン情報ウィンドウ、右サイドの各チャンネルの設定情報ウィンドウと数種のポップアップウィンドウにて構成されています。

4.1. メニューバーの機能と構成



名称1	名称2	説明
File	Open	指定したファイルを読み出しその内容を表示します。
	Save	全チャンネルの設定内容を、現在オープン中のファイルに、保存します。
	Save As	全チャンネルの設定内容を、ファイル名を指定して、保存します。
	End	R2Conを終了します。
Connect	Connect	通信ラインを接続します。
	DisConnect	通信ラインを切断します。
Model	2H3	2H3の設定画面を表示します。
	2G3	2G3の設定画面を表示します。
Configuration	Modbus	Modbus通信パラメータの設定画面を開きます。 (画面の機能と構成は、4.5.2を参照下さい)
	Burnout Type	バーンアウトタイプの設定画面を開きます。 (画面の機能と構成は、4.5.3を参照下さい)
	Filter Time Const.	フィルタリング時定数の設定画面を開きます。 (画面の機能と構成は、4.5.4を参照下さい)
	CJM	冷接点温度補償素子交換の設定画面を開きます。 (画面の機能と構成は、4.5.5を参照下さい)
	Upload	アップロードを開始します。
	Download	ダウンロードを開始します。
Monitor	Start	モニタリングを開始します。
	Stop	モニタリングを終了します。
Adjustment	Zero/Span	ゼロ・スパン調整の設定画面を開きます。 (画面の機能と構成は、4.5.6を参照下さい)
Alarm	Alarm out	警報出力の設定画面を開きます。 (画面の機能と構成は、4.5.7を参照下さい)
Help	Index	現在、未対応
	Contents	現在、未対応
	Version	バージョン情報を表示します。

4.2. ツールボタンの機能と構成



名称(左から順番に)	説明
Open File	指定したファイルを読み出しその内容を表示します。
Save	全チャンネルの設定内容を、現在オープン中のファイルに、保存します。
Save As	全チャンネルの設定内容を、ファイル名を指定して、保存します。
Start	モニタリングを開始します。
Stop	モニタリングを終了します。
Upload	アップロードを開始します。
Download	ダウンロードを開始します。
Help	現在、未対応です。

4.3. 機種名&バージョン情報ウィンドウの機能と構成



名称	説明
Model Name	型式
Hardware Version	ハードウェアバージョン
Firmware Version	ファームウェアバージョン
Serial Number	機番
Manufacture Date	製造日
Calibration Date	校正日

4.4. 各チャンネルの設定情報ウィンドウの機能と構成

4.4.1. 2H3 設定情報画面の機能と構成

Ch. No.	Input Type	Input Real	Raw Input	CJC SW	Status
1	(PR)	776.491 °C	10.074 mV	OFF	●
2	E(CRC)	153.986 °C	10.073 mV	OFF	●
3	J(IC)	187.355 °C	10.077 mV	OFF	●
4	T(CC)	215.652 °C	10.078 mV	OFF	●
5	B(RH)	1498.386 °C	10.071 mV	ON	●
6	C(Wre 5-26)	619.650 °C	10.075 mV	ON	●
7	N	320.626 °C	10.076 mV	OFF	●
8	L	184.404 °C	10.077 mV	OFF	●

Burnout Type	Down
Filter Time Const.	1.000 Sec.

Trigger Input **OFF** Alarm Output **OFF**

名称	説明
Ch. No.	チャンネル番号
Input Type	入力タイプ
Input Real	入力実量値
Raw Input	変換前の入力電圧
CJC SW	冷接点補償 ON/OFFスイッチ
Status	アナログ入カステータス 緑色点当時:入力値正常 赤色点当時:入力値異常(入力レンジ範囲外)
Burnout Type	バーンアウト時の動作
Filter Time Const	フィルタリング時定数
Trigger Input	トリガ入力
Alarm Output	警報出力

4.4.2. 2G3 設定情報画面の機能と構成

Ch. No.	Input Type	Input Real	Raw Input	Status
1	-10 to 10 V	5.000 V	5.001 V	●
2	-10 to 10 V	4.999 V	5.001 V	●
3	-10 to 10 V	5.001 V	5.001 V	●
4	-10 to 10 V	5.001 V	5.001 V	●
5	-10 to 10 V	5.001 V	5.001 V	●
6	-10 to 10 V	5.001 V	5.001 V	●
7	-10 to 10 V	5.000 V	5.000 V	●
8	-10 to 10 V	4.547 V	5.001 V	●

Filter Time Const. 2.000 Sec.

Trigger Input **ON** Alarm Output **OFF**

名称	説明
Ch. No.	チャンネル番号
Input Type	入力タイプ
Input Real	入力実量値
Raw Input	変換前の入力電圧
Status	アナログ入カステータス 緑色点当時: 入力値正常 赤色点当時: 入力値異常(入力レンジ範囲外)
Filter Time Const	フィルタリング時定数
Trigger Input	トリガ入力
Alarm Output	警報出力

4.5. 設定用ポップアップウィンドウの機能と構成

4.5.1. 入力タイプ設定画面の機能と構成

- <Prev.> ボタン : ひとつ前のチャンネル番号とその設定を表示します。
 <Next> ボタン : ひとつ後のチャンネル番号とその設定を表示します。
 <Copy> ボタン : 表示チャンネルの設定内容をコピーします。
 <Paste> ボタン : コピーされている設定内容をペーストします。
 <Download> ボタン : 表示チャンネルの設定内容をダウンロードします。
 <Exit> ボタン : 画面を閉じます。

名称	機能	種類(2H3)
Channel	チャンネル番号	1~8
Input Type	入力タイプ	(PR)
		K(CA)
		E(CRC)
		J(IC)
		T(CC)
		B(RH)
		R
		S
		C(Wre 5-26)
		N
U		
L		
P(Platinel2)		
CJC SW	冷接点補償 ON/OFF スイッチ	

4.5.2. Modbus 通信設定画面の機能と構成

- <Upload> ボタン : アップロードを開始します。
 <Download> ボタン : ダウンロードを開始します。
 <System Restart> ボタン : R 2 Mシリーズをリスタートさせます。
 <Exit> ボタン : 画面を閉じます。

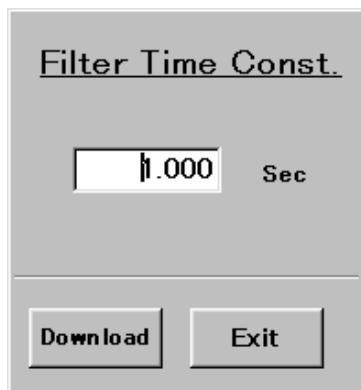
名称	機能	種類
Node Address	Modbusノードアドレス	設定されているスレーブアドレスが表示される
Baud Rate	Modbusのボーレート	9600 / 19200 / 38400 (default)
Bit Length	ビット長	8bit
Parity	パリティビット	NONE / ODD (default) / EVEN
Stop Bit	ストップビット	1bit (default) / 2bit
Floating Type	浮動小数点伝送形式	Normal Float (default) / Swapped Float

4.5.3. Burnout Type の設定画面の機能と構成

- <Download> ボタン : ダウンロードを開始します。
 <Exit> ボタン : 画面を閉じます。

名称	機能	種類
Burnout Type	バーンアウト時の動作	None
		Up
		Down

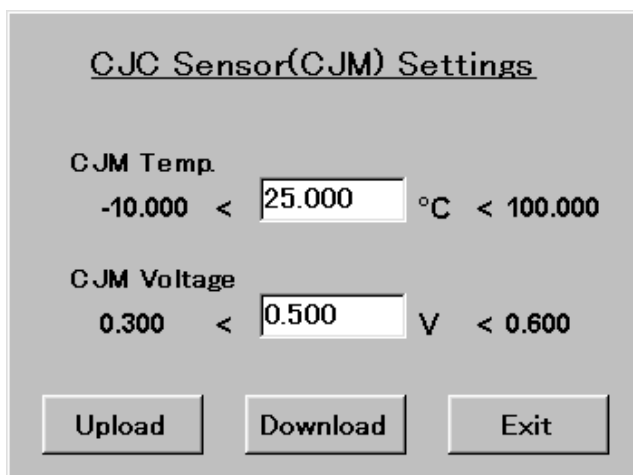
4.5.4. Filter Time Const.の設定画面の機能と構成



- <Download> ボタン : ダウンロードを開始します。
 <Exit> ボタン : 画面を閉じます。

名称	説明
Filter Time Const.	フィルタリング時定数 単位:秒

4.5.5. CJC Sensor(CJM)の設定画面の機能と構成



- <Upload> ボタン : アップロードを開始します。
 <Download> ボタン : ダウンロードを開始します。
 <Exit> ボタン : 画面を閉じます。

名称	機能
CJM Temp.	冷接点素子基準温度
CJM Voltage	冷接点素子基準電圧

4.5.6. ゼロ・スパン調整の設定画面の機能と構成

チャンネル毎に、ゼロ・スパン調整を行えます。先にゼロ調整データをセットし、その後、スパン調整データをセットして下さい。また、リセット機能は、ゼロ調整データとスパン調整データの両方を一緒にリセットするようになっています。

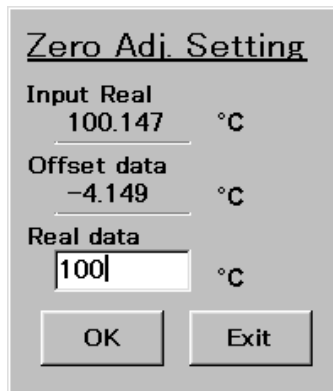
注 チャンネルの入力タイプを変更した時は、ゼロ・スパン調整データが自動的にリセットされますので、再度ゼロ・スパン調整データをセットし直して下さい。

4.5.6-1 ゼロ・スパン調整



- <Prev.> ボタン : ひとつ前のチャンネル番号に対して設定できるようになります。
- <Next> ボタン : ひとつ後のチャンネル番号に対して設定できるようになります。
- <Zero> ボタン : ゼロ調整の設定画面を開きます。
- ボタン : スパン調整の設定画面を開きます。
- <Reset> ボタン : ゼロ・スパン調整をリセットします。
- <Exit> ボタン : 画面を閉じます。

4.5.6-2 ゼロ調整



- <OK> ボタン : ゼロ調整データをセットします。
- <Exit> ボタン : 画面を閉じます。

名称	機能
Input Real	入力実量値
Offset data	ゼロ点のオフセット値
Real data	ゼロ点の真値

4.5.6-3 スパン調整

Span Adi. Setting

Input Real
-13.940

Span coefficient
36.709 %

Real data
-14.1

OK Exit

名称	機能
Input Real	入力実量値
Span Coefficient	スパン調整値から計算されたスパン係数
Real data	スパン点の真値

<OK> ボタン : スパン調整データをセットします。
 <Exit> ボタン : 画面を閉じます。

4.5.7. 警報出力の設定画面の機能と構成

警報出力の模擬テストが行えます。

Alarm Output

ON

OFF

Download Exit

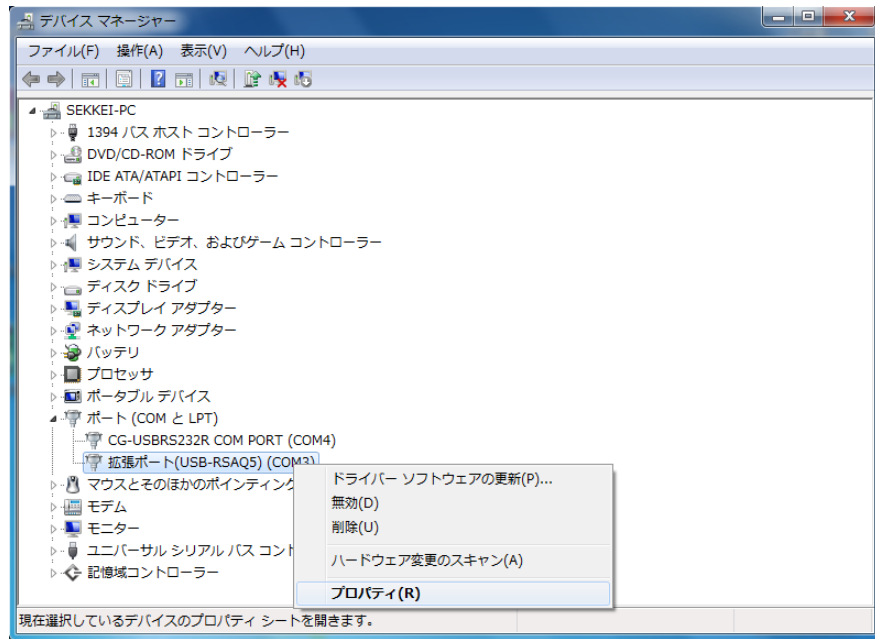
<Download> ボタン : ダウンロードを開始します。
 <Exit> ボタン : 画面を閉じます。

付録

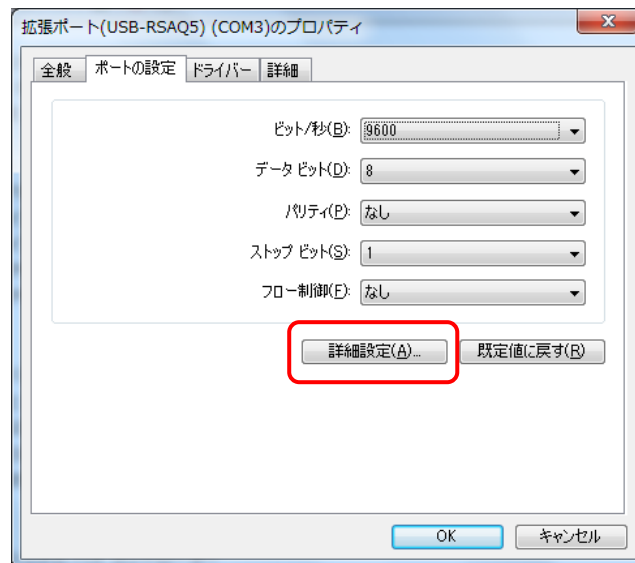
付録 1 通信ポートの変更方法

通信ポートの変更方法を説明します。(画面は Windows 7 です。)

- ① [コントロールパネル] - [システム] からシステムのプロパティを開き、[ハードウェア] タブの [デバイスマネージャ] ボタンをクリックします。
- ② [ポート(COM/LPT)] の変更する通信ポートを右クリックし、プロパティを表示します。



- ③ [ポートの設定] タブの [詳細] ボタンをクリックします。



④ [COM ポート番号] を変更し、OK ボタンを押します。

